

《目指す学校像—温もりと優しさに満ちた安心できる場所—》「児童が今日一日を心に描き、期待に胸をふくらませて登校する学校」

【児童にとって】—楽しさと生き甲斐—	【教師にとって】—向上と協働—	【保護者にとって】—信頼と親しみ—
○学ぶことが明確、学ぶ充実感がある ○頑張り認められ、自信が湧く ○共に学び生活する喜びと、ドキドキワクワク感動体験がある	○資質向上と磨き合い ○責任の意識と互助の精神で ○持ち味や専門性を活かす ○子供のために結束して力を発揮	○この学校なら、この先生ならといわれる地域の信頼スポット ○保護者・地域と共に歩む姿勢で、日常の努力を公開し協力を得る

《学校の教育目標と目指す児童象》「将来の社会を生き抜くために必要な知恵と優しさと精神力の基礎を身に付けた子」

よく考える子供	思いやりのある子供	たくましい子供
<ul style="list-style-type: none"> <li>■課題意識をもって主体的に学び、確かな理解を積み上げる子</li> <li>■チャレンジする心で集中して粘り強く学び、考えを深める子</li> <li>■自分の考えや思いを互いに伝え合える表現力を身に付けた子</li> <li>■人や社会、自然とのかかわり方のあるべき姿を考える子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■友達のよさを認め、互いの頑張り喜び合える子</li> <li>■相手の立場になって考え、やさしい心でかかわれる子</li> <li>■心が一つになる心地よさを実感し、協力してやり遂げる子</li> <li>■人や社会、自然のあるべき姿を求め、進んでかかわっていく子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■オリンピック・パラリンピック開催への意識をもち、健康、安全に気を付け、進んで体力を高める努力を続ける子</li> <li>■心が健康で、挨拶や返事がしっかりできる子</li> <li>■健全な心と体で、困難を乗り越え、やり遂げていく子</li> </ul>

学習指導要領改訂・都や区の教育目標や重点の実現も目指し

《 学 校 経 営 の 重 点 》

都や区の教育課題への取組や保護者・地域の願いも意識し

「本物との出会い、本気、チャレンジ、責任、貢献、達成感」をキーワードに、人や社会、自然と豊かにかかわる「鶴巻小だからこそ」できる教育活動の積極的推進

(1) 工夫と成果が目に見える学習指導の実践

- 子供一人一人の確かな学びを保証する。⇒温かな学級経営を基盤とした授業のユニバーサルデザイン化を進め、目的意識をもちすすんで学習に取り組む児童を育成する。
- 学び合いを重視した課題解決的な学習を日常的に実施する。⇒児童一人一人の個性や思考力・判断力・表現力、幅広い読解力の伸長等、アクティブ・ラーニングを推進する。また、外国語活動においては、「Hi, friend!」等を計画的に活用し、体験的な活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養う。
- 言語活動の充実を図り、論理的思考力・表現力を育成する。⇒全教育活動において、筋道を立てて話す力や聞き取る力等の言語活動の充実を図り、言葉を用いて表現できる児童を育成する。※校内研究の充実を図る。
- 全学年における習熟度別指導を実施し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。⇒「朝学習の時間を設定し、効果を上げる工夫」「漢字力、計算力の指導（家庭学習の習慣化）」「音読、読書指導」「習熟度別指導」「放課後個別指導、つるっ子塾」の充実を図る。
- 本物（人、社会、実物、自然など）から学ぶ活動の計画的実施と充実を図る。⇒「諸感覚を使う体験」「その道の達人から、その技や能力、生きざま等を学ぶ」「地域の環境を生かした環境教育」「自然や食とのかかわりを生かした生命の教育」「障害のある方や世界の国々の人々と交流し、共生と異文化を理解する教育」→年間指導計画を見直し、本物を積極的に位置付け体験的な学びを充実

(2) 心と体の健全な育成のための指導

- 道徳科を要として教育活動全体を通じて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。  
⇒教科書や東京都道徳教育教材集を活用し、道徳的価値について自分のこととして考え、多様な考え方や感じ方に接する場を設定するなど隔週指導の工夫・改善を行う。特に事故の生き方にかかわる「いのちの教育」の充実を図る。
- 社会貢献の意識の育成⇒新宿養護学校との交流、地域清掃、ふれあい給食等の活動をとおして、「共生社会」の一員である自覚と実践力を育成する。
- 6年を手本とする伝統の創造、縦割り班活動の充実  
⇒生活の中から課題を見付け、自分たちで解決できる「自治的な活動能力」の育成を図る。
- 幼・保・中との連携⇒連携教育の充実を図る。小・中 9 年間のスパンで児童生徒を育成するための連携を更にすすめる。
- 生活指導の徹底 ⇒学校としての指導方針を明確にし、規律ある生活態度を育成する。保護者や地域と児童の現状や課題についての共通理解を図り、共に指導していく。
- 体力向上を目指す計画的指導⇒オリンピック、パラリンピックを意識させ、スポーツテストやスポーツギネスを活かした運動や遊びの工夫、マラソン週間の計画的実施、本物から学ぶゲストティーチャーの招へい。
- 食や命を大切に作る心の育成⇒食の原点にある命を実感させる工夫（野菜を育てて食べる）、生き物とのかかわる体験の工夫

(3) 教師自らの変革による教育の活性化

- 学校経営方針の実現に向けた教育活動を計画的に推進する。⇒経営方針を具体化するための学級・専科・特別支援教室等の経営案を作成し、PDCA サイクルに基づいた経営を進める。
- 授業力の向上を図る。⇒「学級経営と授業は両輪である」という考えのもと、まなびの教室と連携を図り、ユニバーサルデザインの視点で授業改善と指導法の工夫を推進する。
- 子どもに向かう時間を確保する。⇒教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係を育て、一人一人が自分の考えや感じ方を伸び伸びと表現できる雰囲気や日常の学級経営で構築する。
- 本物から学ぶ活動の工夫と効果を上げる努力をする。⇒意図的・計画的な「本物」の活用をとおして児童に感動的・効果的な「本物」との出会いを設定する。
- 家庭・地域との連携を大切に教育活動⇒諸通信や教育実践の公開、地域行事への協力、学校 HP 等をおとした積極的な教育活動の発信を行う。

(4) 校内外における安全の確保

- 安全教育の充実⇒児童の危険回避能力や行動選択能力の向上をめざし、地域防災・生命尊重を含めた安全教育の充実を図る。
- 人権感覚の涵養⇒学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ等の未然防止や早期発見・早期解決に向けた迅速で組織的な対応を行う。